

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200385		
法人名	株式会社グランファリスナー		
事業所名	グループホーム ひだまりの丘		
所在地	岐阜県美濃加茂市西町7丁目101番地2		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	令和1年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200385-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成31年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1.体力維持、筋力アップのためのラジオ体操、ストレッチ体操など時間をかけて行っている。また、口顎を鍛えるためのお口の体操を1日2回食前に必ず行います。 2.天気の良い日には、ご近所を散歩したり、南側テラスにて読み聞かせや歌を歌ったりして季節の変化を感じる支援をしている。 3.音楽療法を軸に歌声の響くグループホームです。また、読み聞かせや季節の壁紙を作成したり行事等の楽しみを見つけて毎日を穏やかに生活している。 4.開設記念の8月には夏祭りを盛大に開催し、ご家族やご近所の方以外にも多く参加していただいている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者が住み慣れた地域で、これまで経験してきたことを活かしつつ、できることは自分でやり、できないことは職員の支援を受けながら、安心して笑顔の絶えない暮らしが送れるよう支援している。職員は、利用者の残存機能を維持するため、体操や散歩などで体を動かせるよう支援し、音楽療法では、歌を歌ったり、楽器を演奏するなど、楽しみながら機能向上につながるよう工夫を重ねている。また、管理者と職員が丸となり、地域と連携しながら、利用者が穏やかに暮らし、家族の安心に繋がれるよう支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎日の業務分担表に記載されており毎朝職員が目を通し確認、共有、実践できるよう努力している。	業務予定表には理念が記載されており、職員は、その日の役割を確認する際に理念を目にし、意識する機会となっている。利用者が住み慣れた地域で、適切な支援を受けられるよう、全職員が理念を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月数回傾聴ボランティアの方に来て頂いてなじみの関係になっている。また地域のボランティアの方が季節の時期になると朴葉寿司やおはぎ作りに来て頂き一緒に楽しんで頂いている。	地域の一員として、市の清掃活動に利用者と共に参加している。事業所主催の夏祭りには、多くの近隣住民の参加があり、交流の場となっている。また、地域に福祉への理解を深めるための働きかけを継続的に行っている。	市の行事や地域の様々な行事等に参加しながら、福祉の拠点として、事業所の役割を発信し、さらに地域と連携できるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回の夏祭りを開催する際には近隣住民十数軒にチラシを配布し参加して頂けるよう呼び掛けています。春の地元の神社の子供神輿の休憩所として利用して頂き、秋には地元の保育園の運動会に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行い、行政、民生委員、近隣住民、利用者様家族代表者の参加をして頂きひだまりでの活動内容、現状報告や参加者の方と意見交換をしている。	運営推進会議では、事業所の現状報告、問題点等について意見交換をしている。出席者からの様々な提案・意見を事業運営に活かしている。介護保険に関する質問もあり、行政の協力を得ながら的確に回答している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、月初めに入居者、待機者情報を市に報告しました地域のケアネット会議では積極的に参加している。施設見学や、入居状況についても協力を得ている。	行政とは日常的に情報交換をしており、気軽に相談できる関係を築いている。市主催の連絡会議にも積極的に出席し、地域の高齢者の状況を把握している。また、行政からの助言も得て、利用者へのサービス向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同危険防止を心掛け目配り、見守りを積極的に努めている。表情、朝のバイタル、入浴時、トイレ介助時には注意を払い、夜間等就寝時のベットからの離床を確認する為安全を確保するためにセンサーマットやナースコールを利用している。	日々のケアの中で、拘束に繋がる状況が生じないようカンファレンスで話し合い、身体拘束をしないケアを実践している。事例検討もを行い、職員の理解不足から、利用者の心や行動を束縛することがないように、寄り添う支援に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送りやカンファレンスを通じて虐待事例のニュースがあった時には課題にし如何なる場合も虐待を見過ごされることがないように職員同士防止に努めている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は知っているが職員全員理解はできていないところがある。職員不足で研修に参加出来ないこともあり社内でもカンファレンスを通じて勉強会をしていかなくはと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学の時から詳しく生活内容、入所条件を説明し納得頂いてから入所申込みを決めて頂いています。入所決定後の契約時には契約書内容は全て読み上げ説明を丁寧に実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や利用料の支払い、電話の際に思いを伝えて頂いたり、ひだまりニュースに担当職員からのメッセージを記入して様子をお伝えしている。特別に時間を設ける必要な時は応じている。	職員は、普段から家族とコミュニケーションを図るよう努め、訪問時や電話の際に、意見や要望を聞いている。利用料は、ホームに持参する仕組みを取っており、定期的に利用者、家族、職員が顔を合わせる機会を持つようになっている。また、利用者の様子を写真付きで掲載した「ひだまりニュース」も発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要のある際には随時意見が反映するよう報連相の徹底をしている。カンファレンスでも職員の意見がある際には取り入れ話し合っている。日々職員への連絡は気付きノートに記入し閲覧している。	管理者も介護業務に就いており、日常業務の中で職員の気づきや提案をすぐに把握できる体制である。また、毎月、職員会議を開催し、日勤・夜勤の勤務調整を行いながら、風通しの良い職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成においては出来る限り希望休暇を取り入れている。職員の健康状態や家庭環境も考慮し有給休暇、長期休暇申請、傷病手当金、産休育児休暇申請等に関しても受け入れ実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会には参加させたいが施設の人員不足、家庭事情、健康状況から研修が受けれていない。朝の申し送りで情報交換の際にいい提案があった際には管理者に報告し実施できることは行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議に積極的に参加し他施設の方と意見交換しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人への声かけを積極的にして話を聞くようにしている。話しかけにより安心感をもってもらえるのではと思う。要望があればご家族と連絡を取り不安を取り除くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所後のともご家族の話要望に耳を傾け、それにより安心、安全に暮らしているよう信頼関係をきづけるよう努めている。情報は事前のアセスメント表を通じて職員全員に周知するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設での雰囲気をもてもらうために本人にも施設見学やレク参加をしていただいている。特に施設利用の初めての方には支援の必要性を見極め利用者様に合わせた生活の支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前の生活歴を職員が共有し、一緒に掃除をしたり、朝の体操、作品作りなど他の利用者様と行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設のおたよりにメッセージを書いたり、通院の付き添い、面会の機会を多くもってもらう。その際、近況報告など行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のかかりつけ病院や理美容室はそのまま継続して続けて頂いている。家族の承諾があれば、友人知人の面会もして頂いている。家族の協力があれば外出もしている。またハガキや手紙のやり取りをされたい方への支援も行っている。	家族や知人の訪問時には、茶でもてなし、ゆっくりくつろげる場を提供している。墓参りや馴染みの場所へは家族の協力を得て出かけている。定期的に訪問するボランティアや音楽療法士との交流も、新たな馴染みの関係になってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人、気の合う人同士や、その都度相性を見ながら楽しく穏やかに生活出来るよう配慮している。レクリエーションや音楽療法の際には皆が関わられるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所された方や、亡くなられた方のご家族様が継続して施設の夏祭りにボランティアで毎年参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に伺うも、意思表示できる方には、確認はとれるが具体的なことはなかなか聞けないが、意思をくみとる様努めている。聞き取れた情報についてはご家族に相談しながら面会や外出の協力をお願いしている。	入居時のアセスメントを参考に、思いや意向を把握している。入居後は利用者の表情・会話などからも汲み取りながら気づきノートに記し、申し送りでも報告している。家族からも情報を得て、職員間で共有し、本人本位の支援に繋げている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時、入所時、入所後に話しかけの中で生活歴など聞き取りをしたものや、利用者様同士と会話から得た情報を共有し介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変わった事があれば申し送りや記録、気づきノートを通じて情報を共有している。それにより、みんなで話し対応をその都度検討している。利用者様が自分で出来ることを把握し一人一人に合わせた介護に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の都合で話し合いの場は設けられていなかったが、家族、本人に要望や意思を聞き現在の必要性や状態を知って頂いた後説明し、計画へ反映される様にしている。	介護計画作成にあたり、家族の面会時や電話で意向を確認している。介護記録を基に会議で話し合い、利用者や家族の意向などを踏まえ、介護計画を作成している。利用者の状態変化に応じて、柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活は個別に記録し、その記録を参考にして次につなげている。また個人の状況変化については職員全員把握できるよう気づきノートにすべて記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、買物は家族が対応できない時は行っている。行事、誕生会、外出の計画を立て実践している。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきいきボランティア(傾聴)に月に数回訪問して頂き協力を得ている。料理、折り紙など支援して頂き楽しむことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月に1回、連携医の往診をして頂き健康管理を受けている。他の病院への受診の際には情報提供を行っている。入所前からのかかりつけ医のある方は引き続き治療を受けて頂いている。	利用者は希望するかかりつけ医を選択している。協力医の往診は月1回あり、年1回の健康診断も受診を促し、利用者の健康管理に努めている。協力医以外の病院へは家族が同行し、受診結果の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員のうち1名が看護職であり情報を把握したときには直ちに連携医やかかりつけ医に連絡し指示をもらっている。往診の際にも薬内容等の把握、支持をメモして利用者様に合わせた対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はすみやかに情報提供書を作成しご家族と治療、退院計画について話し合いながら支援しており、入院中、退院時にも看護師、相談員と協力しながら情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合特別養護老人ホーム等への入所案内、入院先の案内を当事業所として対応できることをご家族に説明し終末期の対応について話し合い、本人の変化などその都度報告するようにしている。	重度化や終末期の対応についての方針を説明し、同意を得ている。状態変化があった場合は、早い段階から、利用者、家族、関係者が十分に話し合い、利用者や家族等に不安が生じないよう、適切な対処に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制はできている。応急手当、初期対応の訓練は行っていない。急変時は経験上できる範囲で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの訓練を行ったり、年2回の避難訓練、通報訓練を実施しているが地域との協力体制が出来ていない。	年2回、夜間想定を含めた災害訓練を実施している。訓練後には、参加者で気づきを出し合い、課題の改善に取り組んでいる。利用者と共に、備蓄用食料の試食も行っている。今後は、市の防災訓練への参加も検討している。	現在、検討中である市主催の防災訓練への参加が、実現できることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助する利用者様も増えた為、トイレのドアが閉めれない時もある。ほとんど方が見守りが必要。トイレの声かけは小さい声で心がけているがその人にあった声かけや支援をしている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、信頼関係の構築に努めている。利用者への言葉かけや会話の中でも、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。また、自立を妨げない支援を基本とし、残存機能を最大限に活かしながら対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつを選んでもらう等希望を聞いて提供している。レクに関してはやりたい事を選んでもらっている。可能な限り自己決定して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活ペースはあるが、その日の体調や希望に合わせた対応をして生活して頂いている。毎日洗濯から片付けまで一人で出来る方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類のコーディネートをし、清潔な身だしなみが出来るよう支援している。ヘアカットは2カ月に1回のペースで行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けはできていたが、食事の準備についてはできていなかったのがカレーライス作りを利用者様に分担して作って頂いたが楽しんで出来ていた。できる利用者様が少なくなっているが、皮むきなど簡単なことはやってもらう様にした。	食材は配食サービスを利用しているが、利用者の体調に合わせてアレンジしたり、旬の野菜を多く取り入れながら専門の職員が調理している。また、おはぎや朴葉寿司、干し柿作りなどは利用者が中心となって行っている。年に2回、外食に行く機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行えている。1人1人に合った食事量の提供、体調に合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがい、食後の口腔ケアは必ず職員が付き添い行っており、夜間は義歯の消毒も行っている。定期に訪問歯科受診の利用者様もおられ管理して頂いている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合わせた声かけや時間誘導をしている。パットを変えたりしてリハビリパンツの使用量が減った。パットの工夫により自立につながった。自分でトイレに行く回数も増えた為、失禁されていることが減った利用者様もいる。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけと誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間も同様に見守りながら声かけし、失敗を減らせるよう適切な排泄用品を選択することで、利用者の自信につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操の中でお腹のマッサージをして頂いたり乳製品の摂取をしてもらっている。個々に処方された便秘薬の処方改善につなげている。一人一人の排尿回数、排便日は毎日確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴、タイミングの合わなかった方にはいつでも入浴できるよう援助している。入浴拒否や、出来なかった方には清拭、足浴等で清潔保持を支援している。	週2回の入浴を基本に、利用者の状態に合わせて、足浴やシャワー浴を行っている。職員は利用者の出来る事と出来ない事を把握しており、できる事は極力手を出さずに見守り、できない事は補助し、コミュニケーションを図りながら、自立を妨げない支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をすすめたり、体調をみながら休息をとっていただいている。個々の希望を様子に合わせて明るさ、室温を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすり内容の変更があった時は気づきノートにより職員全員が周知し、その後の様子を観察をしている。個人の専用引き出しに薬は保管され服薬の際には日にち、名前等を読み上げ服用して頂き飲み終えたの袋も職員がチェックしてから処分する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、洗濯干し、洗濯畳み、食器の拭きなど出来る方には意欲的に行って頂いている。利用者様にマイクを使って読み聞かせを行ったり歌をうたったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力がある方は、外出や外食、外泊、旅行などされている。施設ではお花見、紅葉狩り、外食など行っている。	天候や利用者の健康状態に合わせて、近隣の散歩や外気浴など、一人ひとりに適した外出支援をしている。季節の外出行事計画は、利用者の気分転換と楽しみとなっている。個別の外出希望は、家族の協力を得ながら支援している。	

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は2名の方が本人の希望で所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたり家族からの電話も本人に代わり話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたかざりつけで季節感を感じてもらっている。トイレなど1日に2回その他汚れたら都度、掃除している。フロア内も動きやすい動線を考え配置している。寒い時期は床暖房をかけ快適に過ごして頂いている。	居間は広く、利用者が好きな場所でゆっくり過ごせる空間となっている。フロアは動線の工夫があり、ひじ掛けのあるソファは、立ち上がりの動作がしやすい。窓からは近隣の日常風景を眺めることができ、壁には季節感ある利用者の手作り作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所ですごすことができている。気の合った人同士が集まりソファに腰かけてテレビを見たり話をしたりしている。トラブルになると感じたときは職員が間に入ったり席を移動するなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が利用されていた寝具やタンス、食器類、位牌や写真お水のお供えもの等を持ちこみされている。各自時計やカレンダー、写真など好みのものを飾っている。	利用者の状態に合わせて、ベッドや家具を配置している。思い出の写真や花、小物を飾り、落ち着ける居室になっている。居室の掃除は利用者が中心となって行い、本人が過ごしやすい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの利用できない方は、クッションマットを敷いて布団で対応している。トイレ、浴室の場所を聞かれる方もいる為わかる様表示も行っている。居室も間違えないよう名前を表示している。		